

特別研究

2008/4/6 作成

到達目標

大学院で学んだ科目の成果をふまえ、自己の研究テーマについて教員と論議を行い、研究計画書を作成する。そして、倫理的な配慮のもと根拠に基づいた研究方法・成果をふまえて論文を完成し発表する一連の研究プロセスを修得する。

特別研究（研究計画立案）

- ・課題意識を明確にし、研究テーマを設定できる。
- ・研究テーマに関する文献レビューし、研究課題を位置づけられる。
- ・研究枠組みおよび概念枠組みを明確にできる。
- ・研究テーマに適した研究方法を選択できる。
- ・配慮すべき倫理的な事項を列挙できる。
- ・研究計画書を決められた形式で作成できる。

特別研究（実験・調査）

- ・研究計画書にそって、具体的に実験・調査を設定できる。
- ・実験・調査を実際に実施する中で、必要な技術を修得する。
- ・研究の信頼性、妥当性を確保するための事項を理解している。
- ・当該実験・調査の限界と課題を理解している。
- ・実験・調査のデータ分析が適切に行える。
- ・実験・調査から得られた結果を検討し、新しい知見を抽出できる。

特別研究（ゼミナール）

- ・研究課題を分かり易く説明できる。
- ・研究の問題点を他者と議論し、深められる。
- ・ゼミでの他者の意見を参考に、研究方法等の改善ができる。

特別研究（論文作成）

- ・基本的な論文構成（緒言・研究方法・結果・考察・結語・引用文献）に従って、論文を作成できる。
- ・研究内容を分かり易く、正確に記述できる。
- ・研究の論理を明確に記述できる。
- ・倫理上の配慮した記述ができる。

特別研究（研究発表）

- ・発表要旨・抄録を作成できる。
- ・研究内容を分かり易く表現したスライドおよび発表原稿を作成できる。
- ・発表時間内で分かり易く研究内容を説明できる。
- ・質問の意図を理解しようと努める。
- ・質問に対して、適切な回答をするように努める。

課題研究

2008/4/6 作成

到達目標

医療の場を含む人々の健康的な生活の場で生じる諸々の現象をふまえて、主専攻と「看護学の発展」の視座から課題を探求し、教員の指導のもとに論文を作成する。

授業科目：健康情報論（2単位）

到達目標：保健・医療の分野における情報化の状況を把握する。
 保健・医療の分野における情報化に必要な要素を理解する。
 保健・医療の分野における IT 活用の視点を理解する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1,2	20.6.05	木	6, 7	医療情報の安全確保 e-Learning による医療専門職者の キャリア形成支援	森川富昭	看護学科棟 保健指導室 (2階)
3,4	20.6.12	〃	〃	求められる保健・医療の情報化	栗原幸男	
5,6	20.6.19	〃	〃	電子カルテの現状、標準コード	〃	
7,8	20.6.26	〃	〃	保健・医療での情報化の手順 保健・医療の情報システム評価	〃	
9,10	20.7.10	〃	〃	医療データベースの活用	〃	
11,12	未定	〃	〃	デジタル通信の活用 マルチメディアの活用	〃	
13,14	〃	〃	〃	看護教育でのコンピュータ活用 AI 活用の可能性と課題	〃	

参考図書：

1. Kathryn J. Hannah, Marion J. Ball and Margaret J.A. Edwards. Health Informatics: Introduction to Nursing Informatics. Springer.
2. 日本医療情報学会 10 周年記念出版編纂委員会. 医療情報学 1～3 巻. (有) ネットワーク.
3. 中野正孝ほか. 系統看護学講座 基礎 8. 情報科学. 医学書院.

授業科目：保健統計論（2単位）

- 学習目標：1) 看護研究を実際に行って収集されたデータの特性について学習する。
- 2) 母集団から抽出された標本データから母集団の特性を推定するために、平均値等の集団の特性値及びその検定手法、比率の検定手法を理解する。
- 3) 看護研究でしばしば用いられる調査票を用いた手法について、社会調査論の立場から実施手技について理解し、得られたデータの収集・解析・評価の実際を学習する。
- 4) 人間の健康や障害に係わる事象と影響する要因との因果関係を推定するための統計手法（二次クロス・三次クロス・多変量解析）を実際に SPSS、Excel 統計等の統計ソフトを用いて学習する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	20.10.6	月	6・7	保健統計学①データの取扱い	吾妻 健	地域看護学講座・地域看護学 共同研究室（4階）
2	10.20	〃	〃	保健統計学②比率の比較検定	〃	
3	11.10	〃	〃	保健統計学③平均値の比較検定	〃	
4	12.1	〃	〃	基礎統計学, 2群間の比較	高尾俊弘	
5	12.15	〃	〃	分散分析と多重比較	〃	
6	21.1.5	〃	〃	独立性の検定	〃	
7	21.1.26	〃	〃	グラフ作成法	〃	

授業科目：健康環境論（2単位）

- 学習目標：1) 人間の健康に影響を与える要因に対する基本的視座を学び、疾病や障害の発生するメカニズムを理解する。
- 2) 健康要因の中でも特に内部環境（ホメオスターシス）の破綻が人間の健康に与える影響を学習する。
- 3) 環境ホルモンの人体への曝露に関する影響を学び、疾病や異常を引き起こす許容限界の考え方を理解する。
- 4) 人間の健康に影響を与える要因のうち、ストレスのマネジメント、リスクコミュニケーションの実際を数名のグループに分かれて検討し、各グループの考えをプレゼンテーションする。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	20.10.27	月	6・7	ホメオスターシスと健康	高尾俊弘	地域看護学講座・地域看護学 共同研究室（4階）
2	11.17	〃	〃	グループワークとプレゼンテーション	〃	
3	12.8	〃	〃	環境ホルモンと健康	〃	
4	12.22	〃	〃	グループワーク	〃	
5	21.1.19	〃	〃	グループワークとプレゼンテーション	〃	
6	2.2	〃	〃	ストレスと健康	〃	
7	2.9	〃	〃	グループワークおよびまとめ	〃	

授業科目：看護研究論（2単位）

到達目標：看護研究における研究計画書、質的研究と量的研究のそれぞれに対応した研究デザイン、方法論、文献等の評価、英文論文査読などを通して論文作成の概要について説明できる。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員
1	20.4.17	木	6	看護研究序論	藤田倫子
2		〃	7	文献検索の方法	藤田倫子
3	4.24	〃	6	課題選択・問題設定	藤田倫子
4		〃	7	研究計画書作成・倫理委員会への申請	藤田倫子
5	5.08	〃	6	量的研究におけるデータ収集と分析	藤田倫子
6		〃	7	質的研究におけるデータ収集と分析	高橋永子
7	5.15	〃	6	データの収集・分析・結果・考察	藤田倫子
8		〃	7	研究計画書プレゼンテーション（1）	藤田倫子 野村晴香
9	5.22	〃	6	研究計画書プレゼンテーション（2）	藤田倫子 野村晴香
10	9.04	〃	6	1) 英文看護論文査読 ① 質的研究手法	吾妻 健
11		〃	7	② 問題の所在・文献レビュー・研究方法	吾妻 健
12	9.11	〃	6	③ 研究結果・考察	吾妻 健
13		〃	7	2) 英文看護論文査読 ① 量的研究手法	吾妻 健
14	9.18	〃	6	② 問題の所在・文献レビュー・研究方法	吾妻 健
15		〃	7	③ 研究結果・考察	吾妻 健

1) 使用教科書: Denise F. Polit Bernadette P. Hungler 近藤潤子監訳 NURSING RESEARCH Principles and Methods 看護研究 原理と方法 医学書院 2002. 11

2) 参考文献

(1) Carol Grbich 著 上田礼子 上田敏 今西康子 訳 保健医療職のための質的研究入門、医学書院 2003. 7

- (2) 舟島なをみ 質的研究への挑戦 医学書院 1999. 7
- (3) Immy Holloway Stephanie Wheeler 著 野口美和子 監訳 ナースのための質的研究入門 研究方法から論文作成まで 医学書院 2000. 3
- (4) グレッグ美鈴 麻原きよみ 横山美江 編著 よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをみざして 医歯薬出版株式会社 2007. 2
- (5) キャサリン・ポーズ ニコラス・メイズ 編集 大滝純司 監訳 質的研究実践が伴う保健・医療サービス向上のために 医学書院 2001. 9
- (6) マデリン M. レイニンガー 編集 近藤潤子 伊藤和弘 監訳 看護における質的研究 医学書院 1997. 6

授業科目：看護理論（2単位）

到達目標

1. 看護学における看護理論の位置づけを学び、これまでに開発された諸理論について理解する。
2. 看護実践の中で応用可能な中範囲理論と基礎となる広範囲理論の概念について理解し、活用法について説明できる。
3. 学生の看護実践の具体的現象を取り上げ、理論を用いて説明できる。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	20.6.16	月	6	1) 看護理論入門 ① 看護の知のパターン ② 経験の表現としての看護理論	藤田倫子	基礎看護学（3階）・成人看護学（7階） いずれかの共同研究室
2	〃	〃	7	③ 看護理論の歴史 ④ 看護理論の概念 ⑤ 看護理論の記述 ⑥ 看護理論家とその理論の特徴 (演習計画)	〃	
3	6.23	〃	6	2) 看護理論 ① 看護哲学 ② 広範囲看護理論 ③ 中範囲理論	〃	
4	〃	〃	7	看護理論家とその理論の特徴（1） discussion	〃	
5	6.30	〃	6	看護理論家とその理論の特徴（2） discussion	〃	
6	〃	〃	7	看護理論家とその理論の特徴（3） discussion	〃	
7	7.7	〃	6	看護理論家とその理論の特徴（4） presentation、discussion	〃	
8	〃	〃	7	看護理論家とその理論の特徴（5） presentation、discussion	〃	
9	7.14	〃	6	看護実践の理論への適用（1） discussion	藤田倫子 高橋永子 坂本雅代	
10	〃	〃	7	看護実践の理論への適用（2） discussion	〃	
11	7.28	〃	6	看護実践の理論への適用（3） discussion	〃	
12	〃	〃	7	看護実践の理論への適用（4） discussion	〃	
13	9.01	〃	6	看護実践の理論への適用（5） presentation、discussion	〃	

1 4	"	"	7	看護実践の理論への適用 (6) presentation、discussion	"	
1 5	9.08	"	6	まとめ	"	

* 使用教科書

Ann Marriner-Tomey 都留伸子監訳：Nursing Theorists And Their Work
看護理論家とその業績、第3版、2004.

* 参考書

Julia B. George 南裕子他訳：NURSING THEORIES TheBase
for Professional Nursing Practice 看護理論集 より高度な看護実践のため
に、日本看護協会出版会、2003.

授業科目：看護倫理（2単位）

学習目標：倫理の概念について文化的背景を比較しながら概観し、医療及び看護に関連した倫理の位置付け、看護者の実践活動に関する各種倫理規定、実践の場で遭遇する倫理的ジレンマの抽出及びそれらに対応できる知識を修得する。

講義回数	月日(曜)	時間	テーマ	担当教員	場所
1	4/15(火)	7	看護における倫理の歴史的背景	片岡万里	6階老年看護学共同研究室
2,3	4/26(土)	3,4	「倫理」の概念と医療医倫理	阿部眞司	
4	5/13(火)	7	ナイチンゲールと看護倫理	片岡万里	
5	5/20(火)	7	現代社会における倫理的課題1	〃	
6	5/27(火)	7	現代社会における倫理的諸相2	〃	
7	6/3(火)	7	看護職者に関する各種倫理規定1	〃	
8	6/10(火)	7	看護職者に関する各種倫理規定2	〃	
9	6/17(火)	7	看護研究に関する倫理1	〃	
10	6/24(火)	7	看護研究に関する倫理2	〃	
11	7/1(火)	7	看護職者の直面するジレンマ1	〃	
12	7/8(火)	7	看護職者の直面するジレンマとその検討	〃	
13	7/15(火)	7	看護職者の直面するジレンマの検討	〃	
14	7/22(火)	7	課題発表1	〃	
15	7/29(火)	7	課題発表2	〃	

連絡先

片岡研究室 TEL/FAX：088-880-2538;e-mail:mkataoka@kochi-u.ac.jp

テキスト

日本看護協会編：平成15年版 看護白書、p.3-93,p217-235, 日本看護協会出版会, 2003.

参考文献

- 1) 坪倉繁美編：具体的なジレンマからみた看護倫理の基本,医学芸術社, 2005.
- 2) 岡崎寿美子・小島恭子編：ケアの質を高める看護倫理 ジレンマを解決するために, 医歯薬出版株式会社,2002.
- 3) マーティン・ベンジャミン、ジョイ・カーティス著,矢次正利他訳：臨床看護のディレンマ(1),(2),(3), 時空出版, 2000.

授業評価

課題と授業参加度

授業科目：ペアレンティング学（2単位）

到達目標：子どもの生命が尊重され、健やかに育つ社会を育成するために、Parenting Education の概念について理解を深める。人間のライフサイクルの中で生命誕生から小児期、思春期の「将来の親」となる人、そして成人期、壮年期の「親となる過程」の人が抱える現代諸問題及び看護専門職者としての次世代育成や家族支援の方法について追求する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	10.3	金	6	ペアレンティング学の概念 ペアレント・エジュケーションの定義	尾原	小児看護学（5階） の共同研究室
2	10.10	〃	〃	〃	〃	
3	10.17	〃	〃	変化する現代の家族 社会の変化と子どもの環境	植田	
4	10.24	〃	〃	〃	植田	
5	10.31	〃	〃	家族看護学の基礎・家族看護学の動向	尾原	
6	11.7	〃	〃	家族看護学における理論①	尾原	
7	11.14	〃	〃	家族看護学における理論②	川島	
8	11.21	〃	〃	家族看護学における理論③	川島	
9	11.28	〃	〃	家族看護学の臨床と研究	尾原	
10	12.5	〃	〃	家族の変化と家庭の問題 家庭教育と親の責任	濱田	
11	12.12	〃	〃	母子関係の形成と課題	濱田	
12	12.19	〃	〃	母子の心理、社会をめぐる諸問題	北村	
13	1.9	〃	〃	親子関係の作り方 Parent Effectiveness Training	尾原	
14	1.16	〃	〃	〃	〃	
15	1.23	〃	〃	〃	〃	

教科書及び参考書

- ・ゴードン.T. 近藤千恵訳：親業(PET). 大和書房 1998
- ・鈴木和子、渡辺裕子：家族看護学理論と実践、日本看護協会出版会 2006
- ・シリア・ウィタム. 上林靖子他訳：ADHD のペアレント・トレーニング. 明石書店 2005

授業科目：看護英語（2単位）

到達目標：看護及び医療に関する研究論文について数多く購読し、グローバルな視点を持ちながら、基本的な医学・看護用語の習得と基礎的な英語読解力を強化し、自らの専門領域の英語論文を読みこなす力をつける。また、修士論文研究作成に必要な英語力全般の能力を培う。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	H20.10.3	金	7	Developments in the world	植田 味佐	小児看護学（5階）の共同研究室
2	10.10	〃	〃	〃	〃	
3	10.17	〃	〃	〃	〃	
4	10.24	〃	〃	〃	〃	
5	10.31	〃	〃	〃	〃	
6	11.7	〃	〃	〃	〃	
7	11.14	〃	〃	〃	〃	
8	11.21	〃	〃	〃	〃	
9	11.28	〃	〃	〃	〃	
10	12.5	〃	〃	〃	〃	
11	12.12	〃	〃	〃	〃	
12	12.19	〃	〃	〃	〃	
13	H21.1.9	〃	〃	〃	〃	
14	1.16	〃	〃	〃	〃	
15	1.23	〃	〃	〃	〃	

教科書及び参考書等

- 1) www.voanews.com/specialenglish/
- 2) Longman Dictionary of Contemporary English

授業科目：看護教育・管理学特論 I（2単位）

学習目標：看護教育学の歴史や看護教育制度を理解すると共に、看護学教育の機能や教育方法について学習する。そして、看護の質を向上するための施設内教育や専門職化への継続教育の取り組みと、その課題について検討する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	20.4.14	月	6	看護教育学の歴史	藤田倫子	多目的室・基礎看護学（3階）・小児看護学（5階）・成人看護学（7階） いずれかの共同研究室
2	〃	〃	7	看護教育制度論	〃	
3	4.21	〃	6	看護教育学組織運営論 1	高橋永子	
4	〃	〃	7	看護教育学組織運営論 2	〃	
5	4.28	〃	6	看護学教育授業展開論と学習理論 1	尾原喜美子	
6	〃	〃	7	看護学教育授業展開論と学習理論 2	〃	
7	5.12	〃	6	看護学実習指導論	坂本雅代	
8	〃	〃	7	看護学教育評価論	〃	
9	5.19	〃	6	生涯教育と看護継続教育論 1	藤田倫子	
10	〃	〃	7	生涯教育と看護継続教育論 2	〃	
11	5.26	〃	6	看護スペシャリストへの教育課程 1	〃	
12	〃	〃	7	看護スペシャリストへの教育課程 2	〃	
13	6. 2	〃	6	看護教育方法論（プレゼンテーション）	藤田倫子 尾原喜美子 坂本雅代	
14	6.11	〃	6	看護教育方法論（プレゼンテーション）	藤田倫子 尾原喜美子 坂本雅代	
15		〃	7	まとめ	藤田倫子 尾原喜美子 坂本雅代	

使用テキスト

1. 認定看護師および専門看護師教育課程基準・専門看護師教育課程審査要項 2007. 7
2. 杉森みど里・舟島なをみ著 看護教育学第4版 医学書院 2004. 6

参考文献

1. 小島操子・佐藤礼子 がん看護コアカリキュラム 医学書院 2007. 2
2. 舟島なをみ著 看護教育学研究－発見・創造・証明の過程 医学書院 2002. 4
3. 佐藤みつ子 宇佐美千恵子他著 看護教育における授業設計指導案作成の実際 医学書院 2006. 5
4. M. Gaie Rubenfeld, Barbara K. Scheffer 中木高夫 石黒彩子他監訳 クリティカルシンキング看護における思考能力の開発 南江堂 1997. 8
5. Em Olivia Bevis Jean Watson 安酸史子監訳 ケアリングカリキュラム看護教育の新しいパラダイム 医学書院 1999. 12
6. A. H. マスロー著 佐藤三郎・佐藤全弘訳 創造的人間 宗教 価値 至高経験 誠信書房 1972. 7
7. 村山正治編訳 人間論 THE COMPLETE WORKS OF C. R. ROGERS ロジャーズ全集 12 岩崎学術出版社 1967. 3
8. 友田不二男編 伊東博 古屋健治他訳 創造への教育・学習心理への挑戦上 THE COMPLETE WORKS OF C. R. ROGERS ロジャーズ全集 22 岩崎学術出版社 1972. 4
9. 友田不二男編 手塚郁恵訳 創造への教育・学習心理への挑戦下 THE COMPLETE WORKS OF C. R. ROGERS ロジャーズ全集 23 岩崎学術出版社 1972. 4
10. R. J. ハヴィガースト著 荘司雅子監訳 人間の発達課題と教育 玉川大学出版部 1998. 6
11. A. H. マスロー著 上田吉一訳 人間性の最高価値 誠信書房 1973. 8
12. ダニエル. F. チャンプリス著 浅野祐子訳 ケアの向こう側看護職が直面する道徳的・倫理的矛盾 Beyond Caring 日本看護協会出版会 2002. 3
13. 青木宗也編 大学改革と大学評価 JUA 選書第1巻 財団法人大学基準協会 1995. 6
14. 石井紫郎編 転換期の大学院教育 JUA 選書第3巻 財団法人大学基準協会 1996. 2

授業科目：看護教育・管理学特論Ⅱ（2単位）

到達目標：看護管理の考え方と看護組織のあり方、業務分析と業務改善、リスクマネジメント、災害看護管理、看護管理と看護倫理などについて理解する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	20.4.16	水	6	看護管理の機能と役割	高橋永子	基礎看護学共同研究室(3階) 又は 成人看護学共同研究室(7階)
2	〃	〃	7	看護組織の成り立ち、変革への対応	〃	
3	4.23	〃	6	看護専門職の機能と活動 認定看護管理者制度	〃	
4	〃	〃	7	看護経済と診療報酬	〃	
5	5.7	〃	6	看護管理システム論（1）	齋藤美和	
6	〃	〃	7	看護管理システム論（2）	〃	
7	5.14	〃	6	リスクマネジメント	高橋永子	
8	〃	〃	7	災害看護管理	〃	
9	5.21	〃	6	業務改善事例（プレゼンテーション）（1）	〃	
10	〃	〃	7	業務改善事例（プレゼンテーション）（2）	〃	
11	5.28	〃	6	看護管理者に必要なスキル（1）	平瀬節子	
12	〃	〃	7	看護管理者に必要なスキル（2）	〃	
13	6.4	〃	6	キャリア開発(人材育成)	高橋永子 平瀬節子	
14	6.11	〃	6	組織運営と人材育成の実際	宮井千恵	
15	〃	〃	7	組織運営と人材育成の実際	〃	

参考図書

1. 看護管理学習テキスト（全8巻・別巻）、日本看護協会出版会、2006.
2. Stephen P. Robbins 高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2006.
3. 中西睦子：看護サービス管理 第2版、医学書院、2002.
4. 武井勲：リスク・マネジメントと危機管理、中央経済社、2000.
5. 村上耕一他：機長のマネジメント、産能大学出版部、1997.
6. 高橋淑郎：医療経営のバランス・スコアカード、生産性出版、2004.
7. 箱田忠昭：「できる人」の時間の使い方、フォレスト出版、2006.
8. 見藤隆子他：看護職者のための政策過程入門、日本看護協会出版会、2007.

授業科目：看護教育・管理学演習（2単位）（1）

到達目標：看護教育学分野の課題に関連する国内外の文献を購読し、看護管理の今日的な課題を明らかにする。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	20.10.8	水	6・7	看護教育学の現状分析と課題の探求	藤田倫子 尾原喜美子 高橋永子 坂本雅代	基礎看護学（3階）・小児看護学（5階）・成人看護学（7階） いずれかの共同研究室
3・4	10.22	〃	〃	生涯教育の現状分析と課題の探求	〃	
5・6	11.5	〃	〃	実習指導者教育の現状分析と課題の探求	〃	
7・8	11.19	〃	〃	在宅看護管理教育の現状分析と課題の探求	〃	
9・10	12.3	〃	〃	関連テーマからの仮説及び検証	〃	
11・12	12.17	〃	〃	関連トピックス	〃	
13・14	21.1.7	〃	〃	〃	〃	
15	1.21	〃	6	総括	〃	

参考図書

1. 舟島なおみ：看護教育学研究—発見・創造・証明の過程、医学書院、2002.
2. 佐藤みつ子他：看護教育における教育カリキュラムと「看護学体系」、日本看護協会出版会、1998.
3. 藤岡完治他：学生とともに創る臨床実習指導ワークブック、医学書院、1996.
4. 松木光子監：看護学臨地実習ハンドブック、金芳堂、1996.
5. Rheba de Tornyay, Martha A. Thompson 中西睦子他訳：看護学教育のストラテジー、医学書院、1993.

授業科目：看護教育・管理学演習 2（2単位）

到達目標：看護管理学分野の課題に関連する国内外の文献を講読し、今日的な課題を明らかにする。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	20.10.08	水	6・7	看護関連トピックス	高橋永子 齋藤美和 平瀬節子	基礎看護学共同研究室（3階） 成人看護学共同研究室（7階） 又は
3・4	10.15	〃	〃	看護管理の実態と課題 看護管理に関する情報収集	〃	
5・6	10.22	〃	〃	課題テーマの背景	〃	
7・8	10.29	〃	〃	看護管理における課題の明確化 （プレゼンテーション）	〃	
9・10	11.05	〃	〃	課題テーマに関連した実態報告	〃	
11・12	11.12	〃	〃	課題テーマに関連した先行研究の クリテーク	〃	
13・14	11.19	〃	〃	看護研究方法の検討・研究計画書の 作成	〃	
15	11.26	〃	6	総括	〃	

授業の進め方

ゼミナール方式とし、授業内容、スケジュールについては、学生の希望を考慮し変更する場合があります。

授業科目：保健医療情報学演習（2単位）

到達目標：看護教育・看護管理・看護研究に必要な情報処理手法を修得する。
医療情報システムの特徴を理解する。
医療情報データベースの特徴を理解し、活用方法を修得する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1, 2	20.10.2	木	6・7	保健医療情報の特性	栗原幸男	看護学科棟 保健指導室 (2階)
3, 4	未定	〃	〃	看護教育・看護管理・看護研究における対象の情報（データ）表現	〃	
5, 6	〃	〃	〃	看護教育・看護管理における研究対象の情報（データ）表現演習	〃	
7, 8	〃	〃	〃	データベースからの関係解析手法	〃	
9, 10	〃	〃	〃	研究対象データベースからの関係解析演習	〃	
11, 12	〃	〃	〃	保健医療情報学の研究事例の検討	〃	
13, 14	〃	〃	〃	総括	〃	

参考図書：

1. Marion J. Ball, Kathryn J. Hannah, Susan K. Newbold and Judith V. Douglas.
Health Informatics: Nursing Informatics. Springer.
2. 日本医療情報学会 10 周年記念出版編纂委員会. 医療情報学 1～3 巻. (有) ネットワーク.
3. Rita D. Zielstorff (編)、西垣 克 (監訳). 看護とコンピュータ. 医歯薬出版.

授業科目：母子看護学特論Ⅰ（2単位）

到達目標：あらゆる世代の女性及び子どもと家族の健康増進のための課題を探求し明確にする。時代の変化及び日本の歴史的背景・文化、諸理論の理解を基に母性と子どもの課題の具体的な支援のあり方を追求する。

講義回数	開講時期	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4.18	金	6	オリエンテーション 子どもと家族を取り巻く環境	尾原	母性看護学共同研究室
2	4.25	〃	6	子どもと家族を理解するための理論1 (発達理論1)	〃	
3	5.9	〃	6	子どもと家族を理解するための理論2 (発達理論2)	〃	
4	5.16	〃	6	子どもと家族を理解するための理論3 (セルフケア理論)	川島	
5	5.23	〃	6	子どもと家族を理解するための理論4 (コーピングの理論など)	〃	
6	5.30	〃	6	子どもと家族を援助するための理論5 (ソーシャルサポート理論他)	〃	
7	6.6	〃	6	母と子の絆	宮井	
8	6.13	〃	6	妊娠・出産・育児の歴史的な歩み	濱田	
9	6.20	〃	6	小児専門看護師の役割	武市	
10	6.27	〃	6	今日の周産期医療の実態	濱田	
11	7.4	〃	6	母性看護学における主要な概念	〃	
12	7.11	〃	6	生殖医療の発達に伴う倫理的課題	〃	
13	7.18	〃	6	慢性疾患患児の看護	武市	
14	7.25	〃	6	女性のライフサイクルにおける健康問題 (思春期・妊娠・出産)	北村	
15	8.1	〃	6	女性のライフサイクルにおける健康問題2 (中高年期)、まとめ	北村	

教科書及び参考書

必要に応じて随時提示する。

授業科目：母子看護学特論Ⅱ（2単位）

学習目標：母子の生活における QOL の向上を目指した看護の基礎的検討を行う。母子の自律や自己決定や療養における諸症状や反応について検討し、セルフケアにおける課題の抽出や倫理等について理解を深める。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	H20.4.15	火	6	Current topics in pediatric maternal nursing	植田味佐	小児看護学（5階）の共同研究室
2	4.22	〃	〃	〃	〃	
3	5.13	〃	〃	〃	〃	
4	5.20	〃	〃	〃	〃	
5	5.27	〃	〃	〃	〃	
6	6.3	〃	〃	〃	〃	
7	6.10	〃	〃	〃	〃	
8	6.17	〃	〃	〃	〃	
9	6.24	〃	〃	〃	〃	
10	7.1	〃	〃	〃	〃	
11	7.8	〃	〃	〃	〃	
12	7.15	〃	〃	〃	〃	
13	7.22	〃	〃	〃	〃	
14	7.29	〃	〃	〃	〃	
15	9.2	〃	〃	〃	〃	
16	9.9	〃	〃	〃	〃	
17	9.16	〃	〃	〃	〃	

教科書及び参考書等

- 1) www.voanews.com/specialenglish/
- 2) Longman Dictionary of Contemporary English

授業科目：母子看護学演習（4単位）（1）

学習目標:母子看護に関する特論に示したテーマの研究や重要課題について文献レビューとクリティーク、フィールドワークをし、自ら問題を展開する思考を養い、批判力及び研究を実践するための基本的能力を培う。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	H20.10.7	火	6	Current topics in pediatric nursing care & study	植田味佐	小児看護学（5階）の共同研究室
2	10.14	〃	〃	〃	〃	
3	10.21	〃	〃	〃	〃	
4	10.28	〃	〃	〃	〃	
5	11.4	〃	〃	〃	〃	
6	11.11	〃	〃	〃	〃	
7	11.18	〃	〃	〃	〃	
8	11.25	〃	〃	〃	〃	
9	12.2	〃	〃	〃	〃	
10	12.9	〃	〃	〃	〃	
11	12.16	〃	〃	〃	〃	
12	H21.1.7	〃	〃	〃	〃	
13	1.13	〃	〃	〃	〃	
14	1.20	〃	〃	〃	〃	
15	1.27	〃	〃	〃	〃	

教科書及び参考書等

- 1) www.voanews.com/specialenglish/
- 2) Longman Dictionary of Contemporary English

授業科目：母子看護学演習（2）

到達目標：母子看護学、小児看護学における重要課題、母子保健の現状と課題を中心に基礎的・応用的に文献を読み先行研究のクリティークや事例を分析しながら研究法の基礎を修練し、自己の研究課題を明確にしながら研究計画の作成をする。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	10.7	木	6	授業のオリエンテーション 母子看護学研究の概要	尾原	母性看護学共同研究室（5階）
2	10.14	〃	6	わが国の母性看護学領域における研究の動向 母子保健の実態と看護	濱田	
3	10.21	〃	6	わが国の子どもと家族における研究の動向 小児保健の実態と看護	川島	
4	10.28	〃	6	母子における課題の明確化 母子に関する課題のプレゼンテーション	尾原	
5	11.4	〃	6	子どもと家族に関する課題の明確化 子どもと家族の課題のプレゼンテーション	尾原	
6	11.11	〃	6	母子看護学領域の研究の倫理	尾原	
7	11.18	〃	6	看護研究方法の検討（1）質的研究	川島	
8	11.25	〃	6	看護研究方法の検討（2）量的研究	濱田	
9	12.2	〃	6	小児看護研究のクリティーク	川島	
10	12.9	〃	6	母子に関する医療事故と倫理 母子に関連した法律や条約	濱田	
11	12.16	〃	6	研究計画書の作成（1）	尾原	
12	1.13	〃	6	研究計画書の作成（2）	〃	
13	1.20	〃	6	研究計画書の作成（3）	〃	

14	1.27	〃	6	研究計画書のプレゼンテーション	〃	
15	2.3	〃	6	研究計画書の検討・修正 まとめ・授業評価	〃	

授業の進め方：ゼミナール形式

(学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し学習を深める。授業内容スケジュールについては、学生の希望及び反応により漸次修正する。)

教科書及び参考書

佐々木正美：子どものまなざし、副音館書店 1999

ヘルガ・グーゼ（竹内徹、村上弥生監訳）：ケアリングー看護婦・女性・倫理一、
メディカ出版、2000.

その他必要に応じて随時提示する。

授業科目：成人・老人看護学特論 I（2単位）

- 到達目標：1) M・キングの Transaction Theory に基づき人間と環境を捉え、ヘルスプロモーションについて学ぶ。
 2) 環境（生活習慣）及び遺伝と健康について理解する。
 3) 成人期における健康障害の現状について学習し、疾病の自己管理や QOL としての健康について学ぶ。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4.18	金	7	環境と遺伝と健康（1）	吾妻 健	成人看護学講座成人看護学共同研究室（7階）
2	4.25	〃	〃	環境と遺伝と健康（2）	吾妻 健	
3	5.2	〃	〃	環境と遺伝と健康（3）	吾妻 健	
4	5.9	〃	〃	生活習慣と健康（1）	齋藤美和	
5	5.16	〃	〃	生活習慣と健康（2）	齋藤美和	
6	5.23	〃	〃	認定看護師・専門看護師の役割	齋藤美和	
7	5.30	〃	〃	栄養サポートチーム (NST) の役割	溝渕俊二	
8	6.6	〃	〃	静脈・経腸栄養療法について	溝渕俊二	
9	6.13	〃	〃	栄養療法実践のための症例検討	溝渕俊二	
10	6.20	〃	〃	精神面からとらえた健康（1）	戸田由美子	
11	6.27	〃	〃	精神面からとらえた健康（2）	戸田由美子	
12	7.4	〃	〃	がん看護（1）	山脇京子	
13	7.11	〃	〃	がん看護（2）	山脇京子	
14	7.18	〃	〃	ターミナルケア（1）	青木早苗	
15	7.25	〃	〃	ターミナルケア（2）	青木早苗	

参考書：分子予防環境医学 分子予防環境医学研究会 編 本の泉社
 ストレスの心理学、リチャード・S・ラザルス他著 実務教育出版、1991年初版
 ジュリア・B・ジョージ、訳南裕子他、看護理論集、増補改訂版 ーより高度な看護
 実践のためにー 日本看護協会出版会、1998
 大西和子他編、成人看護概論、ヌーベルヒロカワ、2005年
 系統看護学講座、成人看護学総論、医学書院、2007年

授業科目：成人・老人看護学特論Ⅱ（2単位）

学習目標：地域で治療あるいは療養する成人・高齢者を対象にして、その家族への援助を含めて QOL を維持、向上するための支援について、施策とケアの側面から教授し、健康を障害した成人高齢者が社会で共生できるためのシステムの構築について議論します。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	20.6.4	水	7	高齢者のQOL	片岡万里	地域看護学共同研究室（4階） 又は老年看護学共同研究室（6階）
2	6.11	〃	6	家族介護者のQOL	〃	
3	〃	〃	7	高齢者の尊厳に関する今日の課題	〃	
4	6.18	〃	6	ヘルスプロモーションと健康行動理論(1)	徳川陽子	
5	〃	〃	7	ヘルスプロモーションと健康行動理論(2)	〃	
6	6.25	〃	6	ヘルスプロモーションと健康行動理論(3)	〃	
7	〃	〃	7	テーマ未定	在宅（講師）	
8	7.2	〃	6	テーマ未定	〃	
9	〃	〃	7	テーマ未定	〃	
10	7.9	〃	6	生活習慣と健康(1)	高尾俊弘	
11	〃	〃	7	生活習慣と健康(2)	〃	
12	7.16	〃	6	生活習慣と健康(3)	〃	
13	〃	〃	7	高齢者をめぐる保健福祉活動	高橋美美	
14	7.30	〃	6	テーマ未定	杉本加代	
15	〃	〃	7	テーマ未定	小笠原木綿	

授業科目：成人・老人看護学演習（1）（4単位）

到達目標：本科目では、人間・健康・環境・看護に関するグローバルな検討及び思索を行い、専門看護職者としての看護支援に関する職能の向上に寄与する。演習では看護支援のあり方について文献講読及び事例検討を行い、看護実践場面における問題解決能力・マネジメント能力を拡充させる。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	10.8	水	6・7	文献講読・事例検討（1）	吾妻 健	看護学科棟7階・成人看護学共同研究室
3・4	10.22	〃	6・7	文献講読・事例検討（2）	齋藤美和	
5・6	11.5	〃	6・7	文献講読・事例検討（3）	溝渕俊二	
7・8	11.19	〃	6・7	文献講読・事例検討（4）	戸田由美子	
9・10	12.3	〃	6・7	文献講読・事例検討（5）	山脇京子	
11・12	12.17	〃	6・7	文献講読・事例検討（6）	山脇京子	
13・14	1.14	〃	6・7	文献講読・事例検討（7）	青木早苗	
15・16	1.28	〃	6・7	文献講読・事例検討（8）	青木早苗	

参考書：精神分裂病急性期の患者に対する看護ケアの意味とその構造、萱間真美、看護研究、24（5）、59-77（1991）

授業科目：成人・老人看護学演習（2）（4単位）

学習目標：特論で得た、地域で治療あるいは療養する成人・高齢者とその家族のQOLを高める施策と看護の側面から支援に関する知識を活用して、文献の講読及び批評を行う。また、これらの知識を施設及び地域の実践の場で展開し、実践能力を養う。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	20.10.2	木	6・7	生活習慣病 文献講読・事例検討・プレゼンテーション	高尾俊弘	地域看護学共同研究室（4階） 又は老年看護学共同研究室（6階）
3・4	10.9	〃	〃	高齢者のアセスメント	片岡万里	
5・6	10.16	〃	〃	地域ケアシステムに関する文献講読・事例検討・プレゼンテーション	徳川陽子	
7・8	10.23	〃	〃	文献講読・事例検討・プレゼンテーション	藤田晶子	
9・10	10.30	〃	〃	保健福祉医療システム及び保健福祉活動に関する文献検討	高橋美美	
11・12	11.6	〃	〃	文献講読・事例検討・プレゼンテーション	杉本加代	
13・14	11.13	〃	〃	文献講読・事例検討・プレゼンテーション	小笠原木綿	